

## 2017年度(平成29年度)事業報告書

特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会

2018年 4月 17日

さいたま市中央区大戸5丁目17番1号  
特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会  
代表理事 久我 祐子  
電話番号 048-832-8271

### 1 事業実施の方針

南アフリカ共和国クワズールーナタール州ウグ郡を中心とした途上国の貧窮地域の学校を学校図書、菜園活動、スポーツ・課外活動を支柱に支援することで、そのような地域の将来を担う子どもや若者の学力、技術、生活能力を総合的に高めていく。

### 学校図書支援活動事業

ウグ郡ムタルメ・トゥートン・ウムズンベ学区内の30校（プライマリースクール（幼稚園から中学1年）18校およびセカンダリースクール（中学2年から高校3年）12校）を主な支援対象校とし、図書環境を改善し、図書推進活動を支援した。低学年には、バイリンガル算数教室を実施し、小学校高学年以上には、パソコン技術指導を行った。多くの学校で図書委員会の体制が整い、活動が成熟してきた。30校のうち20校が年度末にTAAAからの支援を卒業し、来年度からは自立して図書活動が行えるようになった。

#### 図書環境の改善

図書室のないプライマリースクール2校にコンテナ図書室を設置した。前年度日本から送られてきた16,729冊の本を対象校に一通り配布し、余った在庫は、州教育省に寄贈し他地域の学校に配布してもらった。11月に日本から12,115冊が到着し、第4四半期に分類、配布を開始した。また、現地語の本およびリクエストに沿った英語の本を現地で購入し、各対象校のレベルやニーズに合わせて配布した。

#### 英語力の向上

学校図書の蔵書不足を補うために、クリアケースに40冊～50冊の本を入れた「ブックボックス」の貸し出しを行った。1校に一定期間貸し出し、対象校間を巡回させた。生徒数の多い学校は、生徒たちの図書室の本利用に制限があるため、ブックボックスを多めに配備し、各教室内で読書ができるようにした。読書感想文の宿題、音読、朝礼時での生徒による本の紹介、スペリングコンテストなどの英語力向上活動を行い、読み書き能力と発表力を養った。

小学校4年生から英語で行われるようになる算数の授業に対応できるように、小学校低学年を対象に、日本から送られてきた算数セットを使って、算数バイリンガル（英語とズールー語）学習を実施した。算数セットのツールを使い、見て触れて数確かめながら母語と英語で学習できたため、生徒たちは落ち着いて、楽しみながら数や計算を理解することができた。全ての対象校において、年度末算数テストの合格率が前年度より上昇した。

### リソースセンター設置とパソコン技術指導

新規校10校の図書室にノートパソコンと印刷機を一台ずつ配備し、昨年度からの継続校10校と合わせて20校を対象にパソコン技術指導のプログラムを行った。合計732名の生徒がパソコン・プログラムを修了したが、各校とも受講生のなかに必ず図書委員会生徒を含めることで、彼らが図書室で他の生徒への指導をできるようにした。図書委員会生徒たちは、パソコンを使って本の貸し出しリストの管理を行い、図書推進ポスターを作成するなど、図書委員会活動に積極的にパソコン技術を活用した。セカンダリースクール最終学年の受講生は、パソコンで履歴書を作成したり、インターネットで大学情報を入手したりするなど、パソコンを使って進路を切り拓いていた。

### 図書委員会活動の定着と発展

図書委員会生徒たちは、図書室の運営・管理以外にも、スペリングコンテストなどの図書イベントの準備を中心になって行うなど、活動を発展させた。セカンダリースクールの中には、図書委員会生徒による他生徒へのパソコン技術指導が定着した学校もあり、そのような学校では、校内パソコン指導員として活躍する図書委員会生徒も出てきた。プライマリースクールでも、国際読書週間に、図書委員会生徒たちが、詩やポスターを作成し、全校生徒へ読書を推奨するなど、積極性が出てきた。

2月には一年間の図書活動の集大成として、地域ホールで全対象校による読書推進イベントを開催した。各校の図書委員会生徒たちは、日頃の図書活動を発表し、対象校間で交流し学び合った。

学年末に図書委員会生徒全員が卒業することを回避するため、メンバーは必ず複数学年から選出し、数名は新年度も委員会に残るシステムを取り入れたため、各校での引き継ぎがスムーズに行なわれた。

## 学校およびコミュニティー菜園支援活動事業

### 地域住民への有機農業指導による菜園活動の広がり

JICA草の根技術支援事業「農業塾を拠点とした農村作り」（2016年7月～2019年4月）として、昨年度コロコロ地域に設立した有機農業塾を拠点とし、同地域とトフェット地域の2地域で、地域住民および対象校生徒に対して各自のレベルとニーズに応じた指導を行った。塾内でのトレーニングコース、学校やグループへの出張研修会、出張トレーニングコース開催、地域住民への個別訪問指導など様々な形態で指導を行った結果、コロコロ地域では100名が、トフェット地域では94名の住民が受講した。このうち126名（コロコロ地域70名、トフェット地域56名）が継続して家庭菜園を行っており、指導員は引き続きモニタリング訪問を行っている。

昨年度の受講生も含めて、今まで指導を受け菜園活動を続けている地域住民のうち、38名（コロコロ地域8名、トフェット地域30名）が、収穫物を地域住民に販売している。また、塾卒業生のメンバーからなる若者グループも設立され、各自の家の周辺で畑作業をしながら協力して販売・マーケティングを行

い、大型スーパーマーケットにも収穫を卸している。次年度に正式な協同組合を設立することを目指して活動している。

### 有機農業塾の発展

地域における有機農業塾の知名度が上がり、問い合わせや訪問者が増えた。農業塾の敷地では、地域で家庭菜園を普及するために苗を育て販売しているが、需要が増えたため育苗所を拡大し増産した。第3四半期より、上級トレーニングコースとして養鶏研修を開始した。塾内敷地に鶏舎を設置し、南ア国内で品種改良されたKoekoekという鶏を飼育している。また、農業塾内リソースセンターにおいて、図書室での本の貸出しやコピーなどのサービスを住民および近隣の学生が利用している。

### 対象地域内の学校生徒、保育園児への指導

長期的な農村作りの観点から、昨年度に引き続き、対象地域内の学校や保育園での菜園活動、および生徒たちの家庭菜園活動をモニタリングし、必要に応じて技術支援を行った。保育園では、園児たちは遊びの一環として、楽しみながら菜園活動をし、収穫物は栄養改善のためランチに利用されている。

対象地域内の14校の菜園活動をモニタリングし、生徒たちの家庭菜園を訪問、指導した。地域住民対象の出張研修は、主に学校を会場として使ったため、対象校生徒の家族が多く参加し、家族と一緒に家庭菜園をする生徒たちが増えた。第3四半期以降は、採種の指導に注力した。

### **スポーツ・課外活動振興事業**

日本で28個のサッカーボールを収集し南アに送り、前年度に残ったボールと合わせて対象校7校に配布した。また、地域サッカーチームへユニフォームの寄贈をし、TAAA現地スタッフから形成されるTAAAチームと交流試合を行った。また、現地スタッフが主導となり結成された、地域内生徒を対象としたコミュニティー少年サッカーチームへのユニフォームの寄贈と技術指導を行った。

勉強は遅れ気味だが「学校でサッカーができる」ことがモチベーションとなり、学校を辞めずに長距離を通学し続ける生徒がいることから、当事業は引き続きドロップアウト防止対策となった。

2 事業の実施に関する事項 (2017年4月1日 ~ 2018年3月31日)

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込み額 (千円)
学校図書支援活動事業	<p>基礎教育支援のための学校図書環境改善および読書推進活動</p> <p><u>日本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語の本の収集、梱包、発送作業。</li> <li>・ 対象地域の母語のラベルを貼った絵本作成。</li> <li>・ 算数セットの収集、梱包、発送作業</li> <li>・ ポスター配布などによる当事業の広報活動</li> </ul> <p><u>南アフリカ共和国</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本から送った本の配布。現地での本の購入と配布。</li> <li>● 学校図書室や学級文庫の設置・拡充・環境改善支援。コンテナ図書室を2校へ寄贈、設置。</li> <li>● 各校図書室へのブックボックスの貸し出し</li> <li>● 読み書き能力を高めるアクティビティ推進</li> <li>● 教師への図書室にある英語教材の活用法指導</li> <li>● 20校でパソコン技術指導と図書活動への応用。</li> <li>● ジュニアプライマリを対象に算数セットを使ったバイリンガル（英語、ズールー語）算数学習を実施。</li> <li>● 司書、図書委員会生徒への訪問指導とモニタリング。</li> <li>● 図書委員会生徒たちの図書運営スキル強化と自主的な図書推進活動への支援</li> <li>● 司書教師対象の研修会、年3回開催</li> <li>● 全対象校による読書推進イベント開催 図書委員会生徒の活動発表。</li> </ul>	日本・南アフリカ共和国ウグ郡 ムタルメ・トカートン・ウムズンベ学区	南ア側 4人 日本側 15人	小・中・高校30校 教師 420人 生徒 13,000人  その他（専門学校、他地域の学校等） 3,000人	9,202

<p>学校およびコミュニティ菜園支援活動事業</p>	<p>学校菜園およびコミュニティ菜園における地域環境保全型農業促進指導</p> <p><u>南アフリカ共和国</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 有機農業基礎トレーニングコースと上級コースを実施</li> <li>● 地域住民の家庭菜園活動の指導、研修会開催、モニタリング</li> <li>● 保育園菜園、学校菜園の指導、モニタリング</li> <li>● 対象校生徒たちの家庭菜園の指導、モニタリング</li> <li>● 農業塾卒業生の菜園活動の指導とモニタリング、収穫販売の指導、アドバイス</li> <li>● 農業塾での育苗と販売、養鶏</li> </ul>	<p>南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トカートン・ウムズンベ学区</p>	<p>南ア側 5人 日本側 3人</p>	<p><b>コロコロ地域</b> 中央部家庭約100軒 地域周辺学校7校の学校菜園と生徒たちの家庭菜園 地域内保育園 3園</p> <p><b>トフェット地域</b> 家庭約100軒 地域周辺学校7校の学校菜園、生徒家庭 地域内保育園2園</p>	<p>12, 109</p>	
<p>スポーツ・課外活動振興事業</p>	<p><u>日本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーボール収集、梱包、発送作業。</li> <li>・当事業の広報活動</li> </ul> <p><u>南アフリカ共和国</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本から送られてきたサッカーボールやサッカーマニユアの配布</li> <li>● サッカー交流試合</li> </ul>	<p>日本・南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トカートン・ウムズンベ学区</p>	<p>南ア側 3人 日本側 3人</p>	<p>小・中・高30校 生徒の所属する地域チーム</p>	<p>生徒 8,000人</p>	<p>101</p>
<p>合計</p>					<p>21, 412</p>	